

皆さん、あけましておめでとうございます。

いよいよ平成最後の年が始まりました。どんな気持ちでこのお正月を過ごしましたか。それぞれに感慨深いものがあったのではないのでしょうか。今年は延高にとっても特別です。創立120周年をむかえるからです。

さて、今日は年の初めということですので、少し大きなスケールの話をして。「違い」とは何かという話です。

生きとし生けるものは全て個体として異なっています。動物も植物も、ひとつとして同じ個体はありません。従って、違っていることが生きていくことの大前提です。違いを受け入れるということは、言わば生きるということと同義語だということです。

では、「違い」にはどんなものがあるのでしょうか。個人でいえば、個性、性格ですね。性別でいえば男性女性、そして今はLGBTと呼ばれる性も存在しています。

さらには、国籍の違い、人種の違い、宗教の違い、などが上げられます。これらの違いもまた、違うことを前提として受け入れ、そこから出発しなければ、様々な問題が起きるわけで、現代社会の課題のほとんどがそこに原因があると思います。

では、個性の違いとは何でしょうか。様々な答が考えられますが、わたしは、一言で言えば、考え方の違い、だと思います。すなわち、何をいいと思うか、何を楽しいと思うか、何をしたいと思うか、そういう思考様式が個性だろうと思うのです。

この「違い」には、基本的に良い悪いはありません。もちろん道徳的に間違っているものはありますが、それを除けば、私たちの個性の違いは、「違い」としてただそこに存在しているだけです。

私たちはその違いを互いに認め、受け入れる必要があります。言い換えれば、互いの個性の違いを受け入れる態度を養うことが一つの成長と言えるのだらうと思います。

さて、違いの一つが性別です。男女の違いについて、昨年末に発表された「ジェンダーギャップ指数」のことを少しお話ししたいと思います。「ジェンダーギャップ指数」とは、その国での男女間の不均衡を示す、世界経済フォーラムが作っている指標です。

その指数で日本は、昨年140カ国中110位でした。実は、日本はいわゆる男女差別が

世界でも未だに大きいと認定されている国です。

昨年ニュースになった医学部入試における女子受験生への差別は言語道断ですが、それ以外にもまだまだ多くの男女差別が残っています。それがなくなる日本社会を目指すべきと強く思います。

では「ジェンダーギャップ指数」で上位に来ている国は、どんな社会なのか。例えば、2位のノルウェーでは、首相がエルナ・ソルベルグという女性です。3位のフィンランドでは民間企業の重役職の3割が女性です。このように、国や会社のトップの多くが女性であれば、社会全体が子どもや家庭により優しい国になるでしょう。

では、なぜそうなったのでしょうか。方法の一つに、法整備におけるクオータ制があります。クオータというのは英語で **quota** 「割り当て」という意味です。つまり、ある組織の定数の、一定数以上は女性でなければならないと法律で決めるのです。

例えば、会社の部長級以上は40%以上が女性でなければならないという具合です。日本でも議論にはなっていて、義務ではありませんが、各政党の立候補者の半分以上を女性にしようという目標を決めています。実現すれば、日本社会も大きく変わるだろうと思います。

さて、「違い」にはまだまだ他にもたくさんありますが、今日は個性の違いと性別、特に男女差別の問題を取り上げてみました。まずは周りの人の違いを受け入れ、互いの良さを認めて、その上で切磋琢磨して自らの成長へと結びつけてほしいと期待して、話をしました。延高でも今年の体育大会で、私の知る限り女性初の団長を、森下さんが務めてくれました。これからも男女の違いを乗り越えた切磋琢磨が繰り返される延高であってほしいと思います。

皆さんにとって、2019年が素晴らしい年になることを願って、今年最初の話とします。